

青山剛昌ふるさと館再整備基本構想
(概要版)

令和4年 3月
北 栄 町

青山剛昌ふるさと館再整備基本構想 [概要版]

■青山剛昌ふるさと館の現状

名称：青山剛昌ふるさと館（歴史文化学習館）
所在地：鳥取県東伯郡北栄町由良宿1414番地
敷地面積：5,141㎡／延床面積：891.27㎡／建築面積：767.27㎡
構造：鉄筋コンクリート2階建

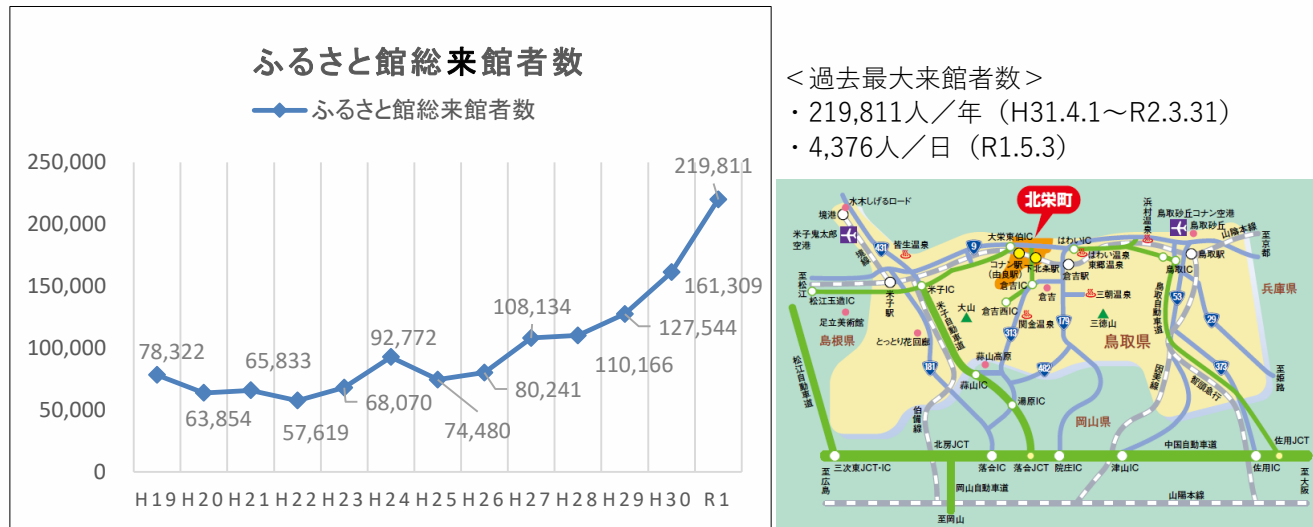


●設置経緯

平成7年2月1日	歴史文化学習館として開館。旧大栄町の歴史や農業に関する資料を中心に展示。
平成11年頃	同町出身の青山剛昌先生の代表作を活用した「コナンのまちづくり」が本格化。同年12月同施設で「青山剛昌展」開催。
平成17年7,8月	「名探偵コナン展」を開催。
平成19年3月18日	青山剛昌ふるさと館としてオープン。

●利用状況

令和元年度の総来館者数は約22万人、同年度の海外からの来館者数は約1万9千人。



●建物の主な諸室面積構成

現在、公開スペースにおける一人あたりの面積試算は0.87㎡。

感染症対策等を鑑みた目安値2～3㎡と比較すると、適切な面積が確保できていない。

諸室	面積比率	基準比率（理想値）※
①公開スペース（展示室、ミュージアムショップ等）	76.23%	約40%
②共有スペース（風除室、ホール、廊下、トイレ等）	16.33%	約20%
③非公開スペース（管理室、荷捌室、燻蒸室兼収蔵庫等）	7.44%	約40%

（※基準比率：「公立博物館の設置及び運営に関する基準（S48～H15）」参考）

●その他の課題

施設設備面（ハード部分）

- ・展示空間…企画展やイベントの実施スペースの不足
- ・安全、快適性…エレベーター等のバリアフリー対応
- ・展示資料と収蔵…収集、保存、活用スペースの不足
- ・館外、屋外施設…地域住民との交流スペースの不足

運営面（ソフト部分）

- ・インバウンド観光客への対応
- ・運営方法…専門人材の不足
- ・周辺施設との連携

■再整備の基本的な考え方

◆◆◆ コンセプト ◆◆◆

「名探偵コナンに会えるまち 北栄町」のシンボルとして、地域住民はもちろんのこと、北栄町を訪れるファンや観光客にも愛される持続可能な施設を目指すとともに、マンガ・アニメ文化の発展と情報発信を担う場を創造する。

●新青山剛昌ふるさと館の目的・役割・方向性

	目的	役割
（1）観光施設として	町の観光施策の中心となる	新しい魅力の造成により、町の観光産業を活性化させる
（2）地元に愛される施設として	地域住民にも愛される地元の誇りとなる	地域の祭りや防災拠点など地域住民の日常に寄り添う
（3）文化の伝承・普及施設として	作品を通し、訪れた人が感性を育み、夢と希望を持つことができる	作品を適切に保存・管理し、活用・普及する

<方向性>
世界中で認知してもらう仕組みを構築し、マンガ・アニメ文化を通して地域社会に貢献する施設を目指す。

●施設モデルと敷地

建設候補地：出会いの広場（鳥取県東伯郡北栄町由良宿1300番地）

新施設で必要と考えられる延床面積：約3,000㎡

●必要な機能と運営

施設設備面（ハード部分）

- 展示エリア
・常設展示室
・企画展示室
・体験型アトラクション
・シアタールーム
・読書ルーム
- 教育普及エリア
・学習講座、体験教室
・移動ふるさと館
- コミュニケーションエリア
・カフェ・レストラン
・グッズショップ
・キッズルーム
・多目的ルーム
- 収蔵エリア
・閉架収蔵スペース
・開架収蔵スペース
- 館外設備
・野外広場
・駐車場
- 共用・管理事務エリア
・エレベーター、手摺り、スロープ、音声ガイド、ピクトグラム等
・事務室、応接室、会議室、職員用休憩室、救護室、備蓄倉庫等

運営面（ソフト部分）

- インバウンド観光客
・多言語表記
・おもてなし強化
- 人材の確保
・学芸員（キュレーター、アーキビスト等）
・グリーティングスタッフ
- 地域・住民・近郊施設との連携・協働
・地域住民の集いの場
・観光施設、店舗、交通機関、SA/PAとの連携
・地域の雇用創出やボランティアスタッフ
- その他広報活動
- 調査・研究

●基本計画に向けて

- ①「青山剛昌ふるさと館再整備基本構想」の趣旨を具体化する
⇒詳細な施設計画、事業計画、事業手法、計画推進体制、全体スケジュール等の整理・調整
- ②広く町民、地域住民の理解と協力が得られる推進体制の充実を図る
⇒町民の参加協働や意見交換の場の設定、マンガを活用したまちづくりへの理解を促す研修等の実施
- ③青山剛昌先生をはじめとする関係者への意向確認に基づき計画を進める
⇒著作物を扱う施設として、先生の意向はもちろん関係者への全面的な理解と協力を得る
- ④町直営だけでなく、民間の活力を使った様々な事業手法を検討していく
⇒事業手法の比較検討、適切な規模・安定した維持管理が継続できる施設運営の検討